

同時進行で一緒に学び、実践する 中村浩士の介護・起業塾

よし！それなら自分も

初めまして、一般社団法人タグボートの代表理事をしております中村浩士と申します。この度初めてメルマガというものを執筆することになりました。緊張していますが、飾らずありのままに自分のスタイルでお話しをさせていただこうと思っております。

私は2022年1月に一般社団法人タグボートを立ち上げ、4月から訪問介護事業を始めました。このコラムをご覧になっている方の中にも「自身で介護事業を始めたい」と思っている方がいるのではないのでしょうか。しかし、何をどこから手を付ければいいのか全く分からず、その不安から一歩踏み出せない方たちのために、私の経験をお話しさせていただき、「よし、それなら自分も！」と思う方が一人でも出てくれることを期待しています。

◆あえて困難に立ち向かう◆

私は高校の時に両親が離婚し、母親は体調を崩して親戚の家に、父親は別の女性とどこかに消えてしまいました。当時大学生だった兄はバイトに明け暮れ、私は少し元気になって働けるようになった母からの仕送りとドーナツ屋のバイトでぎりぎりの生活を送っていました。余ったドーナツをもらえる（非合法です）のが何よりうれしかったものです。しかし、高校は午後からしか行かれず、しかも教室では寝てばかり。当時私は生徒会長をしていたのですが留年の一歩手前。自分の人生に未来を感じられなかったため退学しようと思っていた矢先、たまたま学校の進学相談室に置いてあった福祉専門の学校案内に興味をわき、当時無試験だった『日本福祉教育専門学校』に東京都の育英資金と市の世帯更生資金を借りて入学しました。

卒業後は都内の比較的大きな社会福祉法人が運営する養護老人ホームの生活相談員として就職、そのまま主任生活相談員、施設長補佐となり、気が付けば22年も居座っていました。「このまま惰性で居続けることが自分自身と施設、後進の若い職員のためになるのか」と悩み、本来異動が無い法人でしたが、当時の施設長（理事長兼務）に直談判。「どこでもいいので異動させてください。でも、どうせなら最低のところに行かせてください、そのほうがやりがいがあります」と頼み込みました。

そして法人が「最低」と評価する総合介護事業所に施設長補佐兼ケアマネとして異動が叶い、翌年から施設長として6事業を統括しました。その事業所にはいい人材が多く、サービスも伸びていましたが組織的なまとまりがないという「もったいない」状況でした。そこで

まず手を加えたのが、組織や人事、更に地域とのつながりを作ることでした。何よりも職員が“働きやすい環境”を作りたかったのです。このあたりのことは別の機会にお話しできればと思います。

しかし、歴史ある大きな法人だったことから、意思決定の遅さや法人独自のしきたりみたいなものが多く、どこか閉塞感のようなものも抱えていました。経営的にも厳しい状況が続いたことから、法人の上層部と意見がぶつかることが増えました。7年経ったある日のこと、

「経営の立て直しをするにはリストラを敢行するしかない」

「今そんなことをしたら離職が増え、事業そのものが立ち行かなくなります」

「法人の言うことが聞けないなら施設長として責任をとれ」

「もうあなたたちとは一緒にやれません。私は辞めます」

という感じで後先考えずに退職してしまいました。

私も若かったなあ（笑）

◆ “魔法の言葉” に突き動かされ ◆

そんな時に、研修などで一緒に活動していた施設の相談員と施設長から「事務長が辞めて困っている。組織管理ができる人を探している」と声をかけられ、西多摩地区にある1法人1施設の事務局長として再就職することになりました。その法人は家から片道2時間半ほどかかるため、毎朝4時半に起きて出勤するのですが、1回も遅刻をしなかったのが自慢です（笑）。この法人、私が成年後見人をしていた叔父をすぐに受け入れてくれた「恩」もあり、「困っていたら力になりたい」と思った経緯もありますが、経営が厳しく赤字が続いているが何とか脱却したい、管理体制を構築したい、稼働を向上させたい、旧経営陣を追い出したい（笑）など、いくつかの面白そうなミッションもあり、「5年で結果を出す」という約束で入りました。幸い3年間でミッションコンプリートしたのですが、その時から安定より冒険を望み「何か新しいことをしたい」という私の飽きっぽい性格が頭をもたげました。「この次は何をしようかな」と。

令和3年8月のある日、私が総合介護事業所にいたころのデイサービスのドライバーで、以前は大手広告代理店などで辣腕をふるっていた方から「介護事業をしている知人から相談を受けている。力を貸してほしい」との依頼がありました。その打ち合わせをしているときのひと言が私の人生を狂わせたのです。「そんなに熱い思いがあって、具体的な計画もあるにどうして自分でやらないの」。この先どうしようかと考えていた時に投げかけられたこの“魔法の言葉”をきっかけに『タグボート』は船出に向けての準備が始まりました。

次回からは、介護事業所の立ち上げに当たって

- ・具体的にどんな手続きが必要で、費用はどれくらいかかるのか
- ・仕事しながら開設できるのか（私は6月末まで事務局長を常勤で続けています）
- ・介護職員はどうやって探したか
- ・経営に“素人”でも起業できるのか

等々、一般論ではなく、私はその時何を考えてどう動いたのか、そもそも私が訪問介護事業をやろうと考えた理由や一般社団法人にした理由、その理念と実践等を何回かに分けてお話しさせていただきます。

まさかの出会いに嬉し泣き、コロナに阻まれ悔し泣き、そんな生々しい話を楽しんでもらえるコラムにしていきたいと思います。

一般社団法人タグボート

代表理事 中村浩士

〒153-0042 東京都目黒区青葉台 1-16-6 クリスタルメゾン 201

TEL. 03-6822-0472 E-mail : h-nakamura@tugboat.site